

Monthly Report

「子ども運動教育学科」2017年4月開設 ～本学6番目の学科として誕生～



このほど、「子ども運動教育学科」（定員40名）の設置が文部科学大臣より認可され、平成29年4月に開設される運びとなりました。

幼児期の子どもは体を動かし、音楽に親しみ、図画工作などを通して好奇心と想像力を養い心身ともに発育・発達していきます。

そのプロセスを、まず、体育学の領域で子どもの運動あそびの支援や助長の方式を学び、また、これを軸にして、併せて心身の発育・発達を促す子どもの保育と教育のあり方についても学修していくこと…すなわち、体育学に併せ、幼児教育学・保育学をも一体的に学修していくことが、新設の「子ども運動教育学科」での学修課題です。

この学科では、“スポーツが好き！”、“子どもが大好き！”という方々に、次のような新しいタイプの「幼稚園教諭」、「保育士」、「幼児体育指導者」の資格取得の道を開くこととしています。

また、少子化が進む中、地方では、少ない子どもをいかに良き人材に育て地方の創生につなげていくかが課題になっています。新学科では、体育・スポーツ健康科学、幼児教育学、保育学の分野での多彩な教員が揃い、このような課題に取り組めるような学生を育てることに力を入れていきます。

なお、入学試験はスポーツAO入試（試験日：11月11日）と推薦入試（試験日：11月11日、12日）を皮切りに実施されることになっています。

取得可能な資格（予定）

- 1) 幼稚園教諭一種免許
- 2) 保育士
- 3) 幼児体育指導者

〈目次〉

「子ども運動教育学科」 2017年4月開設	1
ハワイ大学アスレティックトレーナーアドバンスコース研修	2
大元英照選手が リオ五輪の活躍を報告	3
米国研修報告	4
漕艇部がインカレで活躍	5
船岡中学校の生徒が職場体験	6
体操競技部が秋の交通安全 街頭キャンペーンに参加	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
 直通 0224 - 55 - 1802
 E-Mail kouhou@sendai-u.ac.jp

ハワイ大学アスレティックトレーナーアドバンスコース研修 ～8名の学生が参加～



平成28年9月5日～9月13日にかけて、本学と平成26年度に国際交流協定を結んだハワイ大学教育学部運動機能学科(KRS)にて通算23回目のアスレティックトレーナー(AT)アドバンスコース研修が実施されました。例年2月にビギナーコース、9月にアドバンスコースが開催され、ビギナーコースでアメリカのスポーツ文化に触れた後に、アドバンスコースではATの活動や必要な知識について学びます。今回は以前参加した6名と初めての2名で計8名の学生がハワイに渡り、オリエンテーションではヤング教育学部長やKRS学科長のムラタ教授に歓迎と激励を受けました。

日本では主に医・歯学部でしか実施されない「献体解剖」の見学は、アドバンスコースの貴重な経験のひとつです。全米公認アスレティックトレーナーの資格(NATABOC-ATC)を取得して修士課程に学ぶハワイ大学の学生たちの献体解剖に立ち会い、どの献体も、生前に医学を志す学生のためにとの意思を受け、感謝しながら解剖が行われることを知りました。学生たちは献体を前に、僧帽筋はビニール袋並みの薄さでびっくりした、脊柱起立筋は思っていたよりも太い！など、それぞれ模型ではわからない体感を得たようです。また、水分を合成樹脂に置き換えたプラスティネーションという技術でつくられた各部位の標本もあり、同じ部位でも各個体で筋の付き方が違うなど複雑で繊細な人体の構造に関心を深めていました。

約100名の選手を抱えるハワイ大学のアメリカンフットボールチームの朝練習帯同では、練習前のラッシュ時にATルームで練り広げられるトレーナーたちの素早いテーピングなどに目を輝かせ、マッキンリー高校では本学との遠隔授業で講師を務められ今回の研修でも終始お世話になっている金岡友樹先生からハワイ州でどのようにATが浸透し公立高校でも常駐するようになったかなどのお

話に耳を傾けました。

今研修の受け入れ担当の田村薫里先生には、解剖の他にもゲーム中の事故を想定した、脊椎を固定できるスパインボードの利用やアメフトの防具を速やかに外し安全に救助する実技、脳震盪のサインを見逃さないための観察や質問の仕方についてなど現場に即した授業を開講いただき、ことし6月にハワイ大学の学生を引率して本学に滞在された大庭有希也先生には肩周りの構造や、可動域を広げつつ安定性を保つためのエクササイズについて講義を受け、学生たちは帰ったら早速選手に伝えたいと熱心に取り組んでいました。プログラム終盤のアメフトの試合では、臨場感あふれるゲームに歓声を上げたことはもちろんですが、ハワイの学生たちを脳震盪から守るためのプログラムの周知活動も手伝いました。すべてのプログラムが選手と日々向き合う学生たちにとって実践的知識を身に付ける場となり、アスレティックトレーナーが選手の身体や生命と向き合う立場であることを再認識させられる機会となりました。

ハワイ大学の学生たちや、同時期に滞在していた立命館大学の学生たちとも親交を深め、特に本学に短期留学したジャネットさんには自然豊かなクアロア牧場を案内してもらうなど本当にお世話になりました！そして、7月よりハワイ大学で博士号をめざしている白幡恭子助教の存在は大きな力となりました。あらゆる講義の中で本学とハワイ大学との橋渡しを担い、学生のサポートをするとともに、自ら「学ぶ」喜びを見せた姿は学生たちに強い印象を与えたことと思います。提携前の交流から13年目と続くハワイ大学での研修を終え、学生たちは口々に「日本でもATの役割と必要性について認知されるように頑張りたい」と述べていました。

今後もハワイ大学との良好な学術的交流の促進が望まれます。



大元英照選手がリオ五輪の活躍を報告 ～ボート男子軽量級ダブルスカルで15位

リオデジャネイロオリンピックにボート競技男子軽量級ダブルスカルで出場し、15位の成績を収めた大元英照（おおもと・ひでき）選手（平成19年卒、アイリスオーヤマ所属）が9月6日、阿部芳吉学長を訪れ、オリンピックでの活躍を報告しました。

大元選手は「現地の会場は風や波があり、力を十分に発揮できなかった。今回を集大成と考えてオリンピックに臨んだが、4年後の東京オリンピックに向けて頑張りたい。」と次への意気込みも語ってくれました。

阿部学長も「大変お疲れ様でした。4年後の東京オリンピックはこれまで以上に日本中が注目する大会になるはず。今回以上の成績が出せるよう頑張ってください。」と今後の活躍に期待していました。

なお、大元選手からはオリンピックで実際に使用したユニフォームが本学に寄贈されました。



阿部学長にユニフォームを手渡す大元選手

リオ・パラリンピックボッチャ競技 村上光輝さんが日本初の銀メダル獲得に貢献



阿部学長と握手する村上さん

本学大学院1年の村上光輝（むらかみ・みつてる）さんが、9月7日からリオデジャネイロで開催されたパラリンピック競技大会ボッチャ競技に日本代表チームのヘッドコーチとして出場し、日本ボッチャ史上初となる銀メダル獲得に大きく貢献しました。

9月26日には、リオでの活躍の報告に阿部学長を表敬訪問しました。村上さんは「パラリンピックに向けて積み重ねてきたことが銀メダル獲得につながったと思っています。選手が力を発揮してくれて大変うれしく思っています。」と述べ、今後については「ボッチャの戦略に関する研究や、東北でのボッチャの普及に力を入れたい。」と次への意気込みも語ってくれました。

阿部学長は「様々な苦労があったことと思いますが、銀メダル獲得は大変喜ばしいことです。次の東京オリンピックに向けても頑張ってください。」と村上さんをねぎらっていました。

SD研修会「学校コンプライアンス研修」を開催

9月15日（木）に本学第五体育館大教室において、SD研修会「学校コンプライアンス研修」がおこなわれ、本学と法人本部、明成高校から43名の職員が参加しました。

この研修は、学校の評価の低下を事前に阻止するために情報漏洩対策、各種ハラスメントの防止、ソーシャルメディアへの適切な対応など、学校におけるコンプライアンスが重要度を増している中、教職員が正しい知識を身に付けることを目的に、株式会社エデュースの萩原祐子氏を講師に迎えて行われたものです。

研修の中では、過去、実際に学校で起きたトラブル事例などを基に、予防法や現場で活かせる実践的な対処法などが紹介され、コンプライアンスの重要性を再認識することができました。



船戸高樹先生(元桜美林大学大学院教授)主催 米国研修に参加して



THE EDUCATION TRUSTにて

元桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程の船戸教授が企画するアメリカ研修が開催され、本学からは朴澤理事長・学事顧問を始め、総務室笹原、大学院事務室薊の3名が参加した他、全国から船戸ゼミ修了生など13名が研修に参加しました。

今年度の研修はXavier University、AGB（大学理事者協会）、THE EDUCATION TRUST、University of California, Berkeleyを訪問し、最後はラリー・ウォルフ博士（前WASC会長）よりAI（人工知能）の進展が高等教育に与える影響について研修を受けました。

最初の訪問地であるXAVIER UNIVERSITY（オハイオ州シンシナティ）は、学生数7000人の私立大学で、私は5年振りの訪問となりましたが、前回と同様に学内に新しい建物等が出て来ており、常に変貌していることに非常に驚きました。今回も講師を担当していただいたヘイズ博士（5年前に本学にてレクチャーをしていただいている）によると、大学周辺の土地や民家を買収し大学に敷地を少しずつ広げているとのことでした。

また、全米でも屈指の実力を誇るバスケットボールに関しては、専用のアリーナがあり1万人以上が収容出来るとの説明がありました。

こちらでは、「大学マーケティング戦略の課題と展望」についてレクチャーをマーケティングが専門のトーマス・ヘイズ氏より受けました。

次の訪問地はワシントンD.C.にあるAGB。こちらでは、大学理事会のコンサルタントをしている組織から見たアメリカにおける高等教育機関の現状を学びました。

その翌日に訪問した、THE EDUCATION TRUSTの主な業務は所得が低いようなマイノリティの方々に対して、均等に高等教育機関で勉強をすることができるように、情報を収集し、大学などへ働きかける機関であるとのこと。ここでは、ハーバード大学から

始まる米国の高等教育の歴史についてレクチャーを受けました。

ここで印象に残ったのはCollege Results Online (CRO) www.collegeresults.orgというウェブサイトに関する話で、このCRO最大特徴としては、複数の大学を比較することができるということである。このCROに何らかの検索ワードを入力すると、そのレベルに近い大学の一覧が表示され、さらに興味のある大学名をクリックするとその大学におけるSATの点数や卒業率・学費などの受験生が大学を選ぶ際に必要となる情報が多数表示され、受験生やその保護者はそれを基に進学先に関する情報を集めるといった、非常に機能的であり、多くの方が利用しているとのことでした。

ワシントンD.C.での研修を終えて米国研修の旅は最終目的地のサンフランシスコへ。ラリー・ウォルフ博士（前WASC会長）によるレクチャーでは、高騰する州立大学の学費問題から発生する学生に関する諸問題についてとAI（人工知能）の進展が高等教育に与える影響について興味深い話しをしていただきました。ハーバード大学を始めとする有名校では、この分野における研究が既に進んでおり、世の中を大きく変える技術となるであろうAIは将来的に教員や職員が不要となる事態も考えられるという、考え方によっては恐ろしい内容の話しを聞くことができました。

レクチャー後はUCバークレー校の視察へ行き、大学が保有するとてつもなく巨大なスタジアム等の視察を行いました。

以上、アメリカの現状について、日本では知ることができない貴重な研修となりました。今後は、この経験を大学へフィードバックできるよう日々の業務の中でも意識をしてしなければならないと考えています。

【報告：大学院事務室 薊 正展】



AGBでのレクチャーの様子

漕艇部が全日本大学選手権で活躍

9月22日～25日の4日間、埼玉県戸田市にある戸田ボートコースにおいて、第43回全日本大学選手権大会（インカレ）が開催され、本学からは男子7種目、女子3種目が出場しました。

選手たちはこれまでのトレーニングの成果を発揮し、男子エイト、男子舵手なしペアの2種目での3位入賞をはじめ、9種目で入賞を果たしました。

決勝が行われた9月25日には柴田町ボート協会の方々も会場まで応援に駆け付けていただき、選手へ熱いエールを送っていただきました。

また、9月27日には3位に入賞した11人が阿部学長にインカレでの活躍を報告しました。



阿部学長にインカレでの活躍を報告



男子エイトの決勝の様子（手前が仙台大）
（写真提供：阿部 肇 教授）

【結果】

男子		女子	
エイト	3位	舵手付クォドルプル	6位
舵手無しペア	3位	舵手無しペア	5位
舵手無しフォア	4位	ダブルスカル	7位
クォドルプル	5位		
ダブルスカル	7位		
シングルスカル	6位		

東北学生ハンドボール秋季リーグ戦で男女とも3位

このほど、東北学生ハンドボール秋季リーグ戦が開催され、ハンドボール部が男女とも3位に入賞しました。女子は3年連続7回目のインカレ出場権を獲得。男子はインカレ出場権の獲得までには至らなかったものの、2005年春季リーグ以来となる3位入賞を果たしました。

インカレは11月19日から徳島県内を会場に開催されることになっており、女子ハンドボール部の活躍が期待されています。



インカレ出場が決定した瞬間（女子ハンドボール部）

【秋季リーグの結果】

【男子ハンドボール部】

仙台大学	32-30	秋田大学
仙台大学	21-28	富士大学
仙台大学	22-35	東北福祉大学
仙台大学	28-23	福島大学
仙台大学	31-17	東北大学

結果 3位（3位以内は2005年春リーグぶり）
成績 3勝2敗

優秀選手賞 菅野 楓弥（体育学科4年）

【女子ハンドボール部】

仙台大学	13-28	東北福祉大学
仙台大学	13-29	富士大学
仙台大学	21-20	秋田大学

結果 3位（インカレ出場権獲得 3年連続7回目）
成績 1勝2敗

優秀選手賞 大越 幸枝（健康福祉学科2年）

船岡中学校の生徒が学内で職場体験

9月13日～15日の3日間、柴田町立船岡中学校2年生の千葉駿佑（ちば・しゅんすけ）君と尾形璃空（おがた・りく）君が本学で職場体験を行いました。

期間中は図書館内での書架整理や学生生活室での窓口業務、広報室でのプレスリリースを行う作業や取材体験のほか、マンスリーレポートの原稿作成の体験もしてもらいました。

本学では毎年、柴田町内にある3つの中学校（船岡中学校、船迫中学校、槻木中学校）から職場体験のための生徒を受け入れさせていただいています。



学生生活室で窓口業務を体験する千葉君と尾形君

僕は、今回の広報の仕事の体験でいろいろなことを学びました。

まず、図書館にある新聞を全て読み仙台大学や、パラリンピックのボッチャについての記事を探し付箋を付けその部分をコピーし切り取り紙に貼り付け校内にいればいつでもアクセス出来るサイトに張り付ける作業のお手伝いをさせていただきました。その過程でボッチャの監督が、仙台大学にいる人だと聞いたりしましたが、一番に感じた事は、この仕事をしている人は仙台大学を誇りに思っているんだなとおもいました。

次に、大学に関する質問をする時間には、「仙台大学には5つの体育館がありますが、それぞれ役割のようなものはちがうんですか？」と質問して第一、第二体育館は小中学校と同じような役割で、第三体育館は、トレーニングセンター、柔道場、剣道場、体操ができる場所、テレビ局と同じスタジオがあり、スポーツ学科の教室があったり、第四体育館の1階にはアスレチックトレーニングルームがあり2階には新体操アリーナがあり第五体育館には、入学式、卒業式、こども博でのライブもできる広いフロアがある」と教えていただきました。

それから、LC棟についても、教職員のこどもを預かる保育施設があったり今年行われたリオオリンピックでも使用したというパブリックビューイングをすることが出来る場所もあるということも知りました。

最後に、第四体育館にある、アスレチックトレーニングルームにも見学をさせていただき、トレーニングに使用する器具やどのような事をしているのかということの説明をいただきました。

今回の体験は、仙台大学のことはもちろんですが、広報の人達がどのような仕事をしているのかがわかりました。そして、このような場を作っていただいた人達に感謝したいと思いました。

【千葉 駿佑】

僕は、仙台大学の職場体験をして、知った事が3つあります。

一つ目は、仙台大学には体育館が5個あることです。それぞれの体育館には使い道があることがわかりました。第一、第二体育館ではバスケットなどをしていました。第三体育館では、トレーニングセンター、体操場、スタジオ、剣道ができる場所、第四体育館では、アスレチック、リハビリ施設、アリーナ、新体操などがやっている事がわかりました。第五体育館では、入学式、ライブなどがやっているそうです。それとLC棟があり、そこでは保育施設、パブリックビューイングが行われていました。

二つ目は、僕が職員になるには、資格が必要ですか？と質問をすると「部署によって、資格が必要な場合の部署もある、例えば、図書館での勤務には図書館司書の資格が必要になります」と言っていました。営繕管理室では、危険物取り扱いの資格や大型車が使える資格を持っていました。

三つ目は、図書館の事です。図書館では本が12万冊あるそうです。中にはハンドルを回すと本棚が動いて奥にある本を取り出せるものがありました。

僕は図書室に管理人に聞いてみました。「どうして、小説などが少ないんですか？」返事が「小説とかは小学生から高校生で本に関心を抱こう。という意味で置かれていて、大学生とかは勉強に専念しないとダメだから」ということばが返ってきました

部署によって、資格が必要な場所があって図書室の本は小説がないことがわかりました。

【尾形 璃空】

体操競技部が秋の交通安全街頭キャンペーンに参加

9月27日(火)午前7時から約1時間、秋の交通安全県民層ぐるみ運動の一環として、船岡駅周辺で交通安全を呼びかける街頭キャンペーンが行われ、本学からも体操競技部に所属する学生5名と、学生生活室職員2名が参加しました。

冒頭、滝口茂柴田町長から「まずは管内の死亡事故500日間ゼロを目指し交通安全運動を頑張ってください」と挨拶があり、その後、船岡駅周辺でポケットティッシュと交通安全を呼びかけるチラシを配布しながら交通安全を呼びかけました。

参加した運動栄養学科4年の中野まゆかさんは「ふだんから自転車をよく利用しているので、歩行者のことを考えた運転や、夜間のライト点灯など自分ができることから交通安全に取り組んでいきたい。」と交通安全の大切さを再認識した様子でした。

この活動は、春と秋の年2回行われており、本学からも毎回参加させていただいています。

【報告：学生生活室】



交通安全を呼びかける体操競技部員

柴田町制施行60周年記念「2016東北こども博」 ～遊んで、からだを動かし、元気になろう！！

今年で6回目の開催となる「東北こども博」が10月9日(日)と10日(月・祝)の2日間、本学を会場に開催されることとなっています。

9日(日)には、ソチオリンピックボブスレー競技に日本代表として出場した黒岩俊喜さん(平成28年卒、大学院1年)とユースオリンピックスケルトン日本代表の郷内翔さん(岩沼市立岩沼中学校3年)によるトークショーやウルトラマンオーブショー、東北楽天ゴールデンエンジェルスによる「イーグルぐるぐる体操」などのイベントが予定されています。

10日(月・祝)には、リオ五輪柔道女子70kg級で金メダルを獲得した田知本遥選手(ALSOK)と南條充寿教授、南條和恵柔道部女子監督によるトークショーやシルバニアファミリーショーなどが予定されており、2日間を通じて楽しめる内容となっています。

また、こども博と同日程で、「仙台大学大学祭」と「スポーツフェスティバル in 柴田」も開催されることになっており、学内は多くの人で賑わうことでしょう。



遊んで、からだを動かし、
元気になろう！！

柴田町制施行60周年記念

2016 東北こども博

おもしろや遊び、スポーツやお楽しみ、アウトドアなど
体験・参加できるイベントがいっぱいの2日間です。
無料も充実！

9日(日) カルトマンオーブ
ショー
11:30~14:30

9日(日) 女子けんしんけんけん
大会(18歳以下参加可)
15:30~16:30

10日(月・祝) 動物探検隊
ソフトウエアーショー
11:00~13:00

10日(月・祝) 動物探検隊
ソフトウエアーショー
13:00~15:00

入場無料

2016年10月9日(日) 10日(月・祝) 会場 仙台大学